

# 共感と同情が人をつなぐ

## 人の優しさの基礎心理学

北崎充晃 豊橋技術科学大学大学院工学研究科 情報・知能工学系



あなたはいつも一人で生きていると思いませんか？

誰の命令も聞かず、誰にも影響されず毎日を過ごしている。学校にはたくさんの方が居るけれど、自分は誰にも気にされていなくて、いてもいなくて世界は何も変わらない。でも本当は、人は人から大きな影響を受け、誰でも常にすでに他者に影響を与えています。

たとえば、電車のなかで足を組むと前に座っている人も足を組むことがあります。教室で話しているときに、眠くないのにあくびがうつってしまうことがあります。なんと、ペットにもうつることがあるそうです。目の前の方がケガをすると自分も痛く感じることもあります。これらは、身体

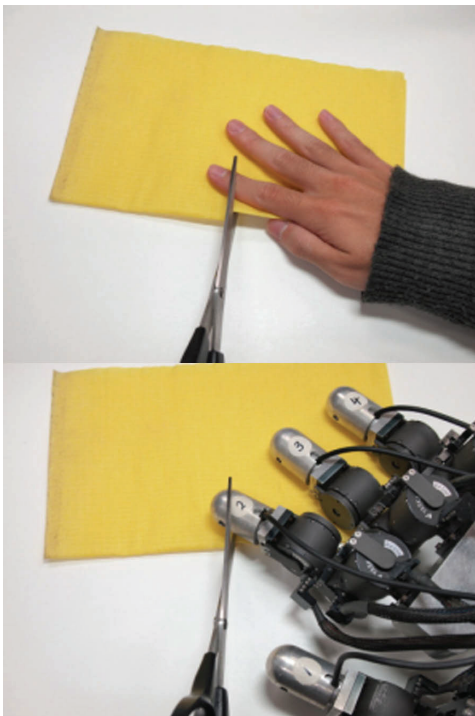
子どもも苦境にある他者に自然に同情を示し、寄り添う。

性の共感と呼ばれ、伝染するかのよう自動的で即座に生じます。共感とは、他人の感情や気持ちを理解し、共有する能力です。それはみなさんにもあり、小さい子どもにも多くの動物にもあります。誰もが持っている心の本質的な機能です。この共感とはとても普遍的でとても自動的で、人だけでなくロボットにも生じることが基礎心理学の研究で示されています。「この感動を共有したい」と思うのも人の本質的なふるまいなのです。



いじめられたことがありますか？ そのとき誰も助けてくれませんでしたか？ 言葉を話す前の赤ちゃんもチンパンジーもいじめられた仲間に対して寄り添ったり、慰めたりして同情を示すことが知られています。このことから、人は生まれつき善なる存在なのかもしれないという人もいます。もちろん、発達にしたいが、経験や社会での複雑な調整の必要性から、実際に起こす行動や態度にはばらつきがでてきます。それでも、私たちがいじめられた時、周りの人は同情し、慰めようという態度、心を持っていると考えて良いでしょう。

チンパンジーも闘いに負けた仲間を慰める。  
Romero, Castellanos, & de Waal, PNAS, 107(27), 12110-12115 (2010)



人はロボットの痛みにも共感する。Suzuki, Galli, Ikeda, Itakura, & Kitazaki, Scientific Reports (In press)

最後に、公平性・平等性もまた人が本質的に好む特性です。4つのりんごを3人の子どもに配らないといけないうとき、どうしますか？ 2人に2つずつ配り、残り1人には何もあげないという選択肢を選びますか？ 実は、3人に1つずつのりんごを配り、最後の1つを捨てるという選択をする人が多いのです。これを不平等回避と言います。相手が子どもではなく架空の人工物でもこの傾向は変わりません。チンパンジーも、隣に仲間が居るときには、自分だけが餌をもらえる選択肢よりも、自分と仲間の両方が餌をもらえる選択をすることが示されています。

人の行動は（動物も）ずいぶん他者に優しいということが、基礎心理学や認知神経科学の研究で示されてきました。そして、その仕組みを解明しようという試みが盛んに行われています。人と人は優しさで、本質的につながっていると言えるのではないのでしょうか。